NIE実践報告

1．タイトル：新聞をデータベースとして活用する試み――「徳島未来構想」模擬県議会に向けて――

2．学校名

鳴門教育大学附属中学校

3．実践者名（代表者名）

大井育代

4．学年

第３学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　１５４名

6．単元（本時の学習課題）名

「徳島未来構想」――模擬県議会に向けて――

7．目標(狙い)

25年後の徳島県議会を想定し、さまざまな視点から徳島の未来について、中学生なりに提言・構想して議論をう。その際のデータベースとして新聞を活用する。

8．評価の視点

一人ひとりが新聞を読み、資料として使える記事を、社会福祉、防災・安全、運輸・情報、文教、環境、産業委員会のボックスに分類して入れる。集めた情報を整理、分析し、政策素案を立てることができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

Ⅰ．徳島の現状と課題（15時間）Ⅱ．徳島の未来構想（26時間）Ⅲ．15歳の提言（6時間）によって構成される大単元である。現状と課題を見極め、模擬県議会を行う際の根拠として新聞を活用している。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

――集めた情報を分類・整理し、個人（グループ）の政策案を立てる。――

集まった記事を分類し、小見出しをつける。その小見出しを付箋に香いて、ボックスに貼っていく。このように情報を見える形にすることで、課題をみんなで共有することができるようになる。①どのような資料が集まっているのか、②何が問題なのか、③現状はどうなのかを整理することができた。

――新聞記事を根拠に考えをまとめる――

どの委員会がどのような議案を提出するという柱立てが決まったら、だれがどの項目を書くかを分担して議案書を書いていていく。その際、新聞記事を根拠とした。

――付箋をもとに情報を関連づける――

付箋に書き出された項目や新聞記事のキーワードについて、同じものをまとめたり、上位項目と下位項目に分類したりした。A3の紙に太字のマジックで書き出していくことで、集団思考を進めることができた。

防災委員会は、南海地震と台風に共通する事柄として、県民の防災意識の高揚と、耐震工事や治水のための財源を確保する必要があると提案した。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

25年後の未来を構想するということは、ややもすると起こり得ない空想論になりやすい。しかし、新聞記事をよりどころとすることで、現実的で客観的な意見を述べることができた。四国八十八カ所巡りの「よさ」を発見した記事や「すだちくんメール」による災害後の対策の記事を使用して政策を述べることができた。

12．成果と課題

（1）新聞記事を分類整理することで信頼性の高いデータベースができた。

調査活動にあたって使うことの多いインターネットの情報は、①いつ書かれたか、②だれが書いたか、③確かなど、信頼性に欠けるものもある。新聞をデータベースとしたことで、上記の課題を克服することができた。

（2）ものごとを総合的に見たり、考えたりすることができた。

データベースを作る過程で、①現状、②課題、②どのような取り組みが進められているかが必然的に浮かび上がってきた。分類整理することで、政党の理念と整合性があるかを考え、物事を総合的に捉えることができ